

第 2 回委員会（平成 30 年 2 月 21 日）における委員指摘事項への対応について

国際航業株式会社

平成 30 年 5 月 9 日現在

No.	指摘事項	回答	対応状況
1	アンケートの対象数はどのように考えられているか。	郵送方式からクリーンセンターでの配布に切り替え、調査対象も増えたので即答はできないが、郵送方式と同等の数量を考えている。	4/9～実施
2	自主避難されている方、復興関連事業で単身赴任されている方が多いので（ごみの原単位が）若干高め傾向に数字が出ている可能性があるのではないのでしょうか。	住民票を移動されていなければ住民基本台帳外の人口になるので、それが理由で排出量が増加している可能性は否定できません。	済
3	灰あるいはごみに含まれている放射性物質濃度のデータはありますか。	次回委員会において、あらかわクリーンセンターおよびあぶくまクリーンセンターのデータを提出します（参考 1）。	受領済
4	現状の課題を整理した結果はわかるが、構想のどういう条件を（課題の整理で）明らかにしようとしているか、全体の流れが見えない。	次回委員会において、一般廃棄物処理基本計画との乖離状況及びごみの将来推計結果を合わせて提示します。	本委員会の【資料 5】を参照
5	「何年を目標にどういう目標値を持ち、何年までにどうするか。」を示してほしい。 「現在の目標がこれで、実情がこうで、将来推計でこうなるので施設基本構想はこうなる。」ということが無い。	<u>※敷地に入るかの検討を優先するため、施設基本構想に掲載する将来推計値は、別途実施します。</u>	
6	あぶくまクリーンセンターの熱供給、熱供給最大可能量と、現在の熱需要とのバランスはどのような形でしょうか。	あぶくまクリーンセンターの「蒸気復水熱収支線図」とヘルシーランド福島の新蒸気仕様設備一覧を提示します（（参考 2）及び添付資料 1 を参照）。 <u>※再整備後の熱供給量は、事業者アンケートを踏まえ設定します。</u>	参考 2 及び添付資料 1 参照
7	委員と検討の速度間の共有を願いたい。	本委員会での指摘を踏まえ、敷地に入るかどうかの検討を急ぎます。	本委員会の【資料 3】を参照

8	周辺状況の把握を施設の検討、設計にどう生かしてしていくのかが不明	本件は、施設整備の前提条件として整理しました。立地の制約条件については再整理して提示します。	添付資料 2
9	景観を阻害するような施設をどうカバーするかを考える必要がある。	近景からのカバー手法は、中木・高木をバランスよく配置するなど方法がありますが、他の委員の指摘である【入るか入らないかの検討】を優先したく考えています。	—
10	ここ（現地）で得られた知見をどう活かすのかを回答願います。	現地で得られた知見、委員の意見を反映した現地の図面を次回委員会で提示します。	添付資料 2 及び添付資料 3
11	周辺施設のリストアップを願います（車による連携も考慮）。	あぶくまクリーンセンターから 1km 程度で周辺の公共施設を連携可能性や利用状況を考慮しリストアップし提示します。	添付資料 3
12	どれくらいの規模の施設が必要で、この敷地に入るか入らないかを判断しなくてはならない。どのような手順で行うかフローを示してください。	参考 3 のとおり計画します。	参考 3
13	再整備に特化した図面を作成すべき。	拝承します。建設可能範囲は、本回答に添付します（添付資料 2 に併せて示します）。	添付資料 2
14	メタン発酵槽を置くスペースが無いのではないかな。	事例の図面を収集し、当てはめにより検討します。検討の結果、ご指摘のとおりということもありえます。	—
15	環境負荷低減技術をグルーピングしたほうがわかりやすい。	グルーピング結果を参考 4 に示します。	参考 4
16	4②（6）今の余熱利用施設との連携の仕方をメリハリをつけて検討してください。	拝承します。	先進地視察後報告
17	排熱の利用先の検討を追加したい。	指摘事項 11 に合わせて公共施設で熱利用が図られているところを抽出します。なお、具体的な熱利用量は、施設の熱収支が明らかになった段階で検討します。	今後検討
18	メーカーアンケートをメーカーの特徴とにならないよう工夫したい。	拝承します。	事業者アンケートに反映

19	処理フロー、検討フロー、全体像を早く出していただきたい。	全体像の把握のため、目次案を先に提示させていただきます。検討フローについては、業務計画書（案）のとおりですが、施設規模の設定やごみ量全体の流れ等については、個別にフローを作成します。	添付資料 4。他は、 進捗に合 わせ都度 対応
----	------------------------------	---	-------------------------------------

(参考1)

《一時保管している焼却灰等の放射性物質濃度》

直近の測定データに加え、測定を開始した当初(平成23年7月)や最大の測定値及びその後5年間の4月の測定データも掲載しました。

あぶくまクリーンセンター

単位：ベクレル/kg

試料採取日	混 合 灰					
	セシウム134	セシウム137	計			
H23.07.22*	20,900	23,400	44,300			
H23.09.28	13,000	16,500	29,500			
H24.04.18	7,213	10,296	17,509			
H25.04.30	5,620	11,000	16,620			
H26.04.30	1,900	5,290	7,190			

試料採取日	主 灰			飛 灰		
	セシウム134	セシウム137	計	セシウム134	セシウム137	計
H26.08.31	914	2,660	3,574	3,850	11,900	15,750
H27.04.30	989	3,970	4,959	3,950	14,400	18,350
H28.04.30	378	1,810	2,188	990	5,140	6,130
H29.08.31	598	4,720	5,318	1,280	10,100	11,380
H29.09.30	248	2,170	2,418	820	6,260	7,080
H29.10.31	93	716	809	353	3,170	3,523
H29.11.30	243	2,030	2,273	589	4,860	5,449
H29.12.31	278	2,100	2,378	579	5,180	5,759
H30.01.31	207	2,160	2,367	628	5,390	6,018

あらかわクリーンセンター

単位：ベクレル/kg

試料採取日	飛 灰			溶融スラグ		
	セシウム 134	セシウム 137	計	セシウム 134	セシウム 137	計
H23. 07. 22*	13, 100	14, 400	27, 500	—	—	—
H23. 09. 28	29, 500	37, 400	66, 900	—	—	—
H24. 04. 24	27, 000	40, 400	67, 400	1, 520	2, 310	3, 830
H25. 04. 30	9, 900	20, 000	29, 900	350	700	1, 050
H26. 04. 30	3, 500	10, 000	13, 500	260	600	860
H27. 04. 30	1, 800	6, 800	8, 600	84	310	394
H28. 04. 30	1, 200	6, 200	7, 400	42	220	262
H29. 08. 31	470	3, 700	4, 170	21	170	191
H29. 09. 30	410	3, 300	3, 710	16	120	136
H29. 10. 31	230	2, 000	2, 230	12	84	96
H29. 11. 30	340	3, 000	3, 340	11	120	131
H29. 12. 31	220	2, 100	2, 320	不検出	48	48
H30. 01. 31	120	1, 100	1, 220	不検出	35	35

- 備考 1. あぶくまクリーンセンターでは、平成 26 年 7 月 31 日までは、主灰と飛灰が混ざった状態の「混合灰」を搬出していましたが、環境省の指示により同年 8 月 1 日からは、主灰と飛灰を分けて搬出してあります。
2. 放射性物質濃度の測定は、ゲルマニウム半導体検出器を用いて測定する方法で行っております。
3. *は、福島県で測定を行っております。
4. 分析結果が検出下限値(10 ベクレル/kg)未満の場合は、「不検出」と表示しております。
5. あぶくまクリーンセンターの平成 29 年 9 月と 10 月の数値が下降しておりますが、クリーンセンターの点検及び工事により、除染ゴミの搬入を制限したことによるものでございます。

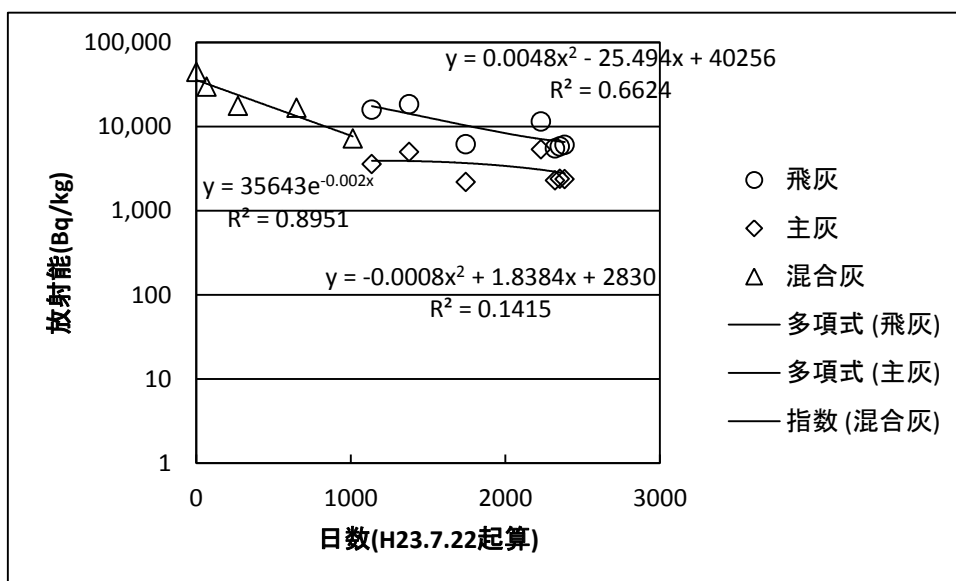


図 1 あぶくまクリーンセンターの放射能の推移

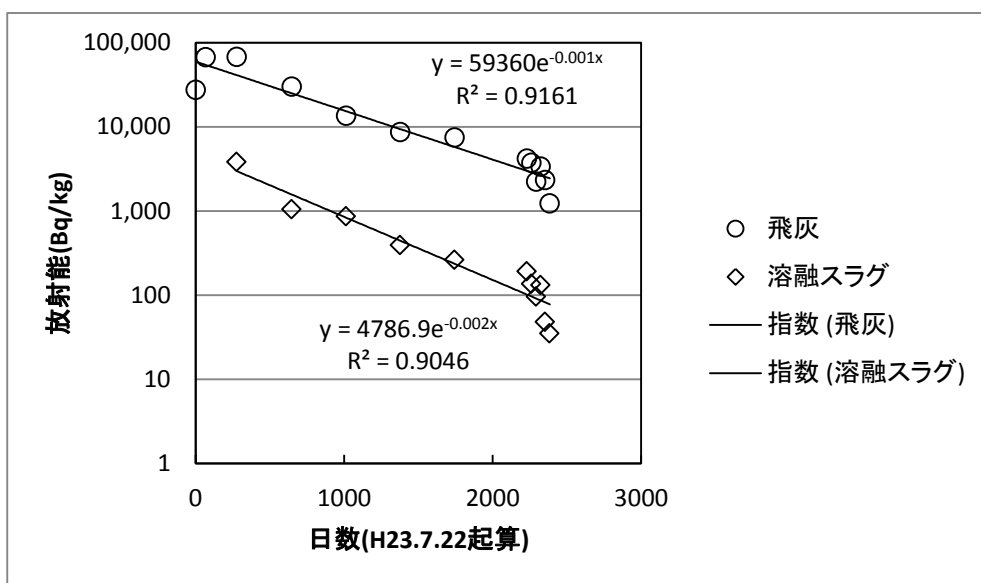
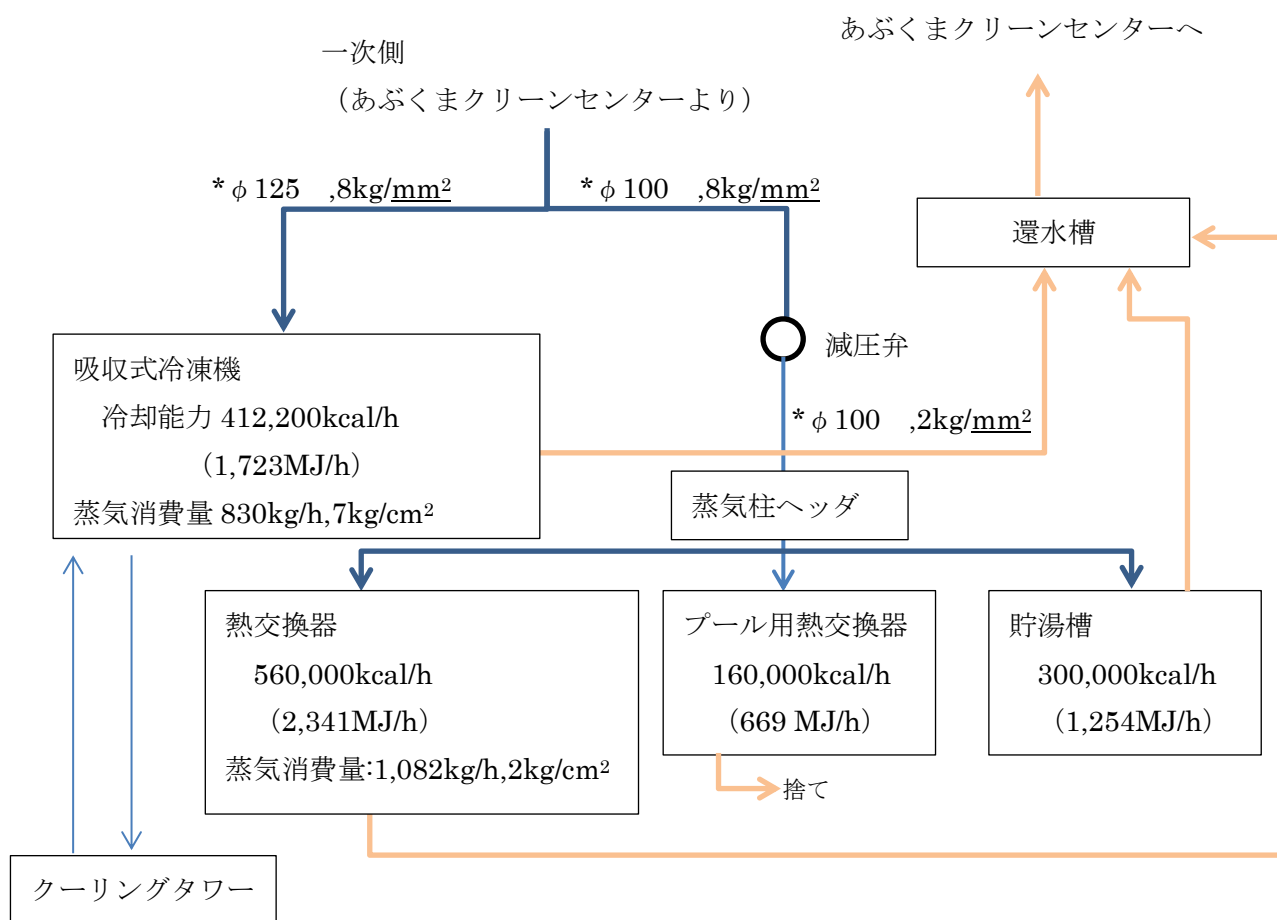


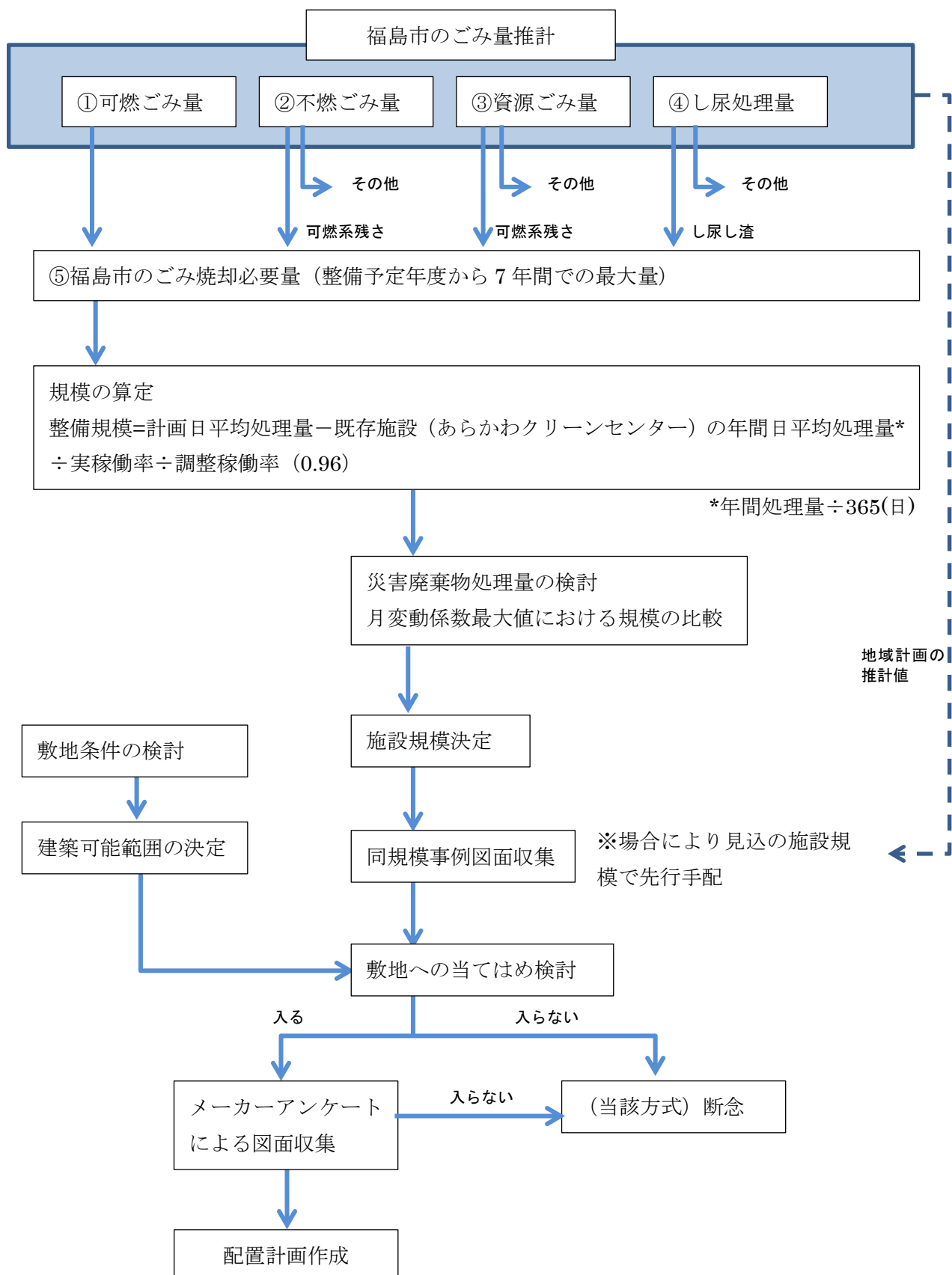
図 2 あらかわクリーンセンターの放射能の推移

(参考 2) ヘルシーランド福島蒸気系統図 (【ヘルシーランド福島空調系統図】を基に作成)



*単位等に誤字が含まれている可能性がある(下線部)が空調設備系統図に記載のまま掲載している。

(参考 3) 施設が敷地に入るかの検討フロー



(参考 4) 環境負荷低減技術のグルーピング

区分	既存技術の適用・発展	環境負荷低減技術の 廃棄物処理施設への適用
発電	C. スーパーごみ発電（複合型発電）	E. 熱電発電モジュール（ペルチェ素子） F. バイナリー発電 G. スターリングエンジン（排熱回収発電）
熱回収	D. 水冷式復水器 I. 高温高压ボイラ	A. 地中熱利用、下水熱利用
原燃料	—	H. バイオガス化 K. エタノール製造
その他	—	B. CO ₂ 分離回収プラント J. 地域電力供給